

	島根大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	生物資源科学部（第1年次:200 第3年次:20） 大学院生物資源科学研究科（M:60）
沿革	昭和22（1947）年 島根県立農林専門学校設置 昭和24（1949）年 新制島根大学設置 昭和40（1965）年 島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置 昭和46（1971）年 大学院農学研究科を設置 平成7（1995）年 農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置 平成12（2000）年 大学院生物資源科学研究科を設置
設置目的等	<p>島根大学生物資源科学部、生物資源科学研究科の母体の一つである島根県立農林専門学校は島根県における農林業の普及発展を目的として昭和22年に設置された。</p> <p>学制改革により島根県立農林専門学校は島根県立島根農科大学に昇格後、国立移管により島根大学農学部として継承された。</p> <p>昭和46年、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用能力を有する研究者と技術者の養成を目的に、農学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成7年、自然との共存・共生の下で人間が豊かで心地よい生活を営むための科学及び技術を教育研究することにより、人間社会と自然環境の調和に貢献する技術の確立と豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献する人材の育成を目的に、理学部生物学科と農学部を改組し、両者にまたがる生物関連の境界領域と先端領域を一本化し、基礎・応用から開発まで体系化した新学部「生物資源科学部」が設置された。</p> <p>平成12年、高度で知的な素養と倫理観を兼ね備えた知識基盤社会を支える研究者や技術者などの高度に教育された人材の養成を推進すると共に、生物資源科学に関する先進的・国際的研究の進展とその成果の還元による地域社会の発展に寄与することを目的に、生物資源科学研究科修士課程が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	島根大学は、理学・農学分野にまたがる生物関連の境界領域と先端領域を一本化し、生物、生命、生産と環境を総合した「生物資源科学」の考究と進展により豊かな社会の形成と地域産業の発展に寄与することを目指し、教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強み

や特色、社会的な役割を有している。

○ 学士課程においては、理学・農学系教員の連携により構成された化学、生物学、物理学などの基盤科目や隠岐・三瓶山などの豊かな自然環境を生かしたフィールド教育プログラムの提供により、生物資源科学に関する学力と深い思考力を身につけた専門職業人の育成の役割を果たす。

大学院修士課程においては、広い学識を涵養するための理学・農学連携の共通科目群及び地域問題解決のための科目群の設定と養成する人材を明確にした教育コースを提供し、社会や産業界の要請を先取りして柔軟に対応できる課題解決能力をもった高度専門職業人の育成の役割を果たす。

○ 学際的卒業研究、初年次からの社会体験や大学院での地域貢献型教育、アジアからの留学生に対する英語教育などの諸プログラムを進めてきた実績を生かし、生資医理工連携科目をはじめとする魅力ある教育研究プログラムを提供し、生物資源科学の幅広い知識と国際的視野をもった実践力のある人材を育成する学部・大学院教育を目指す。

○ 宍道湖・中海や中山間地域を研究フィールドとして進めてきた学際的研究実績を生かし、汽水域の生物資源の利活用やその促進及び高齢化社会における豊かな農山村の創造に寄与する学際的研究を一層推進すると共に、新品種や機能性食材の開発を進めてきた実績を生かして、島根県の有用な農水遺伝資源や生物資源産業のイノベーションにつながるバイオマスを有効利用するための基礎的かつ応用的研究を理学・農学系教員の連携により推進し、農林漁業振興と農学の発展に寄与する。

○ 島根県などの関係自治体の農林漁業政策審議会等への参画、地域資源を活用した特産物の開発・利活用の支援などの実績を生かし、島根県が推進する有機農法や農林水産業の6次産業化などの支援により農林水産、食品及び環境系の産業振興に寄与すると共に、フィールド体験等を通じた小中高生や市民への科学教育啓発活動などの実績を生かし、地域の文化・教育の振興に寄与する。

○ 大学院の地域産業人育成コースや一年制のリカレントコースへの社会人受け入れ実績を生かし、地域の農業・食品・環境産業の発展と高齢化する地域社会における持続可能性向上に資する。